

経営者・従業員のための

# 健康ひとくちメモ 28

これからのがん検診

〜胃がん検診と道具屋〜



(公財)福井県健康管理協会  
検査課放射線グループ  
総括主任 宮川 裕康

## がん検診の目的

がん検診の目的は、当該がんの死亡率を減少させることです。そのためには、エビデンス（科学的根拠）が確立された有効な検診を受診する必要があります。しかし、現状のがん検診システムが適切に運用されているか判断するためには継続的なモニタリングが必要です。このため、中期的に代替指標としてプロセス指標を用います。



## プロセス指標とは

プロセス指標とは次のようなものです。

- ① 受診率  
がん検診対象者のうち、実際に検診を受けた受診者の割合
  - ② 要精検率  
がん検診受診者のうち、精密検査が必要と判断された割合
  - ③ 精検受診率  
要精検者のうち、精密検査を受けた割合
  - ④ 陽性反応適中度  
要精検者のうち、がんが発見された割合
  - ⑤ がん発見率  
検診受診者のうち、がんが発見された割合
- このプロセス指標を用いるこ

とで、検診が死亡率減少につながるよう適切に行われているか、達成度を見ることができません。

## がん検診には違いがある

現在、胃がん検診の方法は主に3種類あります。胃部X線検査と内視鏡検査、ペプシノゲン検査とピロリ抗体検査を併用したABC検査です。厚労省の「がん検診のあり方に関する検討会」では胃部X線と内視鏡検査はエビデンスがあるとされましたが、ABC検査については、現時点では死亡率減少を示すエビデンスが十分でないこととされ、引き続き検証することが必要とされました。

これらの検査方法は、胃がんを発見する道具であって自分にあった検査法を選択されれば良いと思います。

落語に道具屋というお話があります。鉄砲を買おうとした客が：「これはなんぼか？」「一本です」「代じゃ」「台は檜です」「金じゃ」「鉄です」「値は」

「ズドーン」

道具屋の与太郎さんとお客の掛け合いが面白いのですが：がん検診においては客（受診者）と道具屋（健診機関）で思い違いがあつては有効性のある検診とはいえません。

## 有効性のある

がん検診を受けましょう

来年度から福井県では、個別検診で内視鏡検査が始まります。内視鏡検査は対象年齢を50歳以上とし検診間隔を2年に1回とすることとなりました。

胃部X線検査は森を見る検査、内視鏡検査は森の木を一本ずつ見る検査で、それぞれに得手、不得手があります。検査法の違いをご理解されて有効ながん検診を受診してください。

